

会議代表挨拶

第 20 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2020 in 長崎

会議代表 鶴丸 雅子

この度、「第 20 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2020 in 長崎」を、2020 年 10 月 3 日(土)、4 日(日)の 2 日間、長崎市の長崎ブリックホール、長崎新聞文化ホールの 2 会場にて開催させていただくことになりました。第 20 回という節目の年に、ご縁をいただいて会議代表を拝命したことを大変光栄に存じますとともに、重責に身の引き締まる思いです。また、第 1 回、第 10 回に続き、第 20 回の節目を九州で開催できることに、大きな喜びも感じております。

記念すべき第 20 回は、開催テーマを「本質を考える～輝く未来を拓く原点～」としました。日本に CRC が誕生して 20 年以上が経ちましたが、CRC を取り巻く現状には、まだ様々な課題があります。CRC 誕生当時は、手探りで、でも常に「本質」を考えながら業務を開拓してきました。しかし、業務が確立するにつれてマニュアル化・効率化が進み、その「本質」を考える機会が少なくなっているように感じています。なぜその業務が必要なのか、この手順には本当はどういう意味や価値があるのか、これによって何がもたらされるのか、そういう「本質」が理解できる(思い出す)と、自分の仕事に価値が見いだされて、仕事が面白くなっていくと思うのです。この「本質」にこそ、「仕事の醍醐味」があると思っています。

また、昨今の臨床研究・治験をめぐる不祥事は、「本質」が理解できていれば、回避できていたことではないかと考えます。また、業務の効率化を求めるあまり、「本質」から外れた簡略化・断捨離などが進む危険性もあります。

一方、臨床試験・治験を取り巻く環境は、激動の時代が続いています。臨床研究・治験に携わる様々な職種においても、さらなる「変革」が求められています。しかし、「本質」が理解できていなければ、正しい変革は起こせません。Research Integrity、Risk Based Approach、Quality Management、Patient Centricity 等も、全て、臨床研究・治験のあり方における重要な「本質」の概念です。

今回は、プログラム委員長を山岸美奈子さんをお願いし、委員には、産・学・官の立場から、日本の臨床研究・治験を取り巻く環境を良くしたいと熱い思いを持ってご活躍中の方々にお引き受けいただきました。まさに「本質」を考える、魅力あふれるプログラムを多数企画しています。

今回のポスターは、長崎らしく、ステンドグラスと未来を拓く(開く)扉をイメージしています。長崎は江戸時代、唯一西洋に開かれた窓口であり、西洋医学発祥の地です。明治維新には多くの人材が集結し、新しい時代を切り拓いた原点の地でもあります。同じように、長崎で開催する第 20 回が、皆様の力によって、日本の臨床研究・治験の新しい時代を切り拓く原点になればと嬉しく思います。

また、長崎は、和(日本)、華(中国)、蘭(オランダ、ポルトガルなどの西洋)との交流の中で、和華蘭(わからん)「ちゃんぽん」な、長崎独自の文化が育まれてきました。会議で充実した時間を過ごされた後は、「ながさき和・華・蘭グルメ」や観光でも楽しんでいただければ幸いです。

臨床研究・治験に携わる様々な立場の皆様と一緒に、日本の臨床研究・治験の未来が「輝く未来」となるよう、第 20 回がそれを「拓く原点」となるよう、「本質」について議論したいと考えております。

皆様の糧となる魅力的な会にできますよう尽力したいと思っています。

長崎にて、多くの皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。

2020 年 3 月 27 日